

### テーマ：明治期における教育交流としての修学旅行

修学旅行は、小学校、中学校、高校で行われる学校行事の一つです。これは、明治時代においても実施されていました。明治時代の熊本の生徒たちの修学旅行は、どのようなものだったのでしょうか。

今回は、明治期の熊本の生徒たちの修学旅行について紹介したいと思います。ここでは、学校教員の養成機関である熊本尋常師範学校の 1897 年（明治 27）の沖縄への修学旅行を中心に取ります。この修学旅行は、沖縄と熊本二つの地域の教育交流の起源であるのではないかと考えます。

#### 【明治期の熊本師範学校の修学旅行について】

1884（明治 17）前後：毎年春、秋に兎狩り

1887（明治 20）：2 泊の三角港への行軍（この時、制服制帽を持って）、さらに兎狩りへ 2 泊して帰校。行き先は大津地方

1888（明治 21）：学年ごとに熊本県内を回る（6 泊 7 日）

第 4 学年：小学校を巡回、視察と地文研究。阿蘇、合志の 2 郡

第 3 学年以上：農業の研究。下益城および菊池、合志

第 2 学年：博物学研究。合志、菊池、山鹿

第 1 学年：地歴研究。八代、下益城。

1889（明治 22）：行軍旅行。途中発火演習<sup>1</sup>

これまでの修学旅行からわかるように、明治期の修学旅行の特徴は、研究を行いながら徒歩での移動、行軍や発火演習を行っていたことから、軍事的な要素があったということがわかります。これは、他の地域の師範学校や小学校の修学旅行についても言えることです。現在の観光型または体験型の修学旅行と違うことがわかります。

1890（明治 23）：東京へ

目的：第三回内国勸業博覧会を見学するため

この年は、あらゆる段階の学校（小学校、中学校、師範学校など）で東京へ修学旅行を実施していた。この当時、いかに博覧会が、日本にとってインパクトがあるイベントであったかが窺える。

1892（明治 25）：鹿児島へ

---

<sup>1</sup>発火演習では、実弾はこめずに火薬だけこめて撃っていた。紅白に分かれての対戦する形式がとられていた。

1893（明治 26）：長崎へ 雲仙普賢岳に登ったりした。

1894（明治 27）：沖縄へ

1900（明治 35）以降：東京へ

#### 【1894（明治 27）の沖縄修学旅行について】

1894 年 4 月 9 日から 27 日に実施された（日清戦争が始まる直前）

生徒 86 名、教員 11 名、その他 3 名 約 100 名

現在となっては、沖縄への修学旅行は一種の定番になっているが、この熊本師範学校の修学旅行は、沖縄への修学旅行の第一号であった。

費用について一熊本県師範学校の学校を運営する費用は地方税から出されていました。異例ともいべき長旅であったこの修学旅行も、もちろん地方税から支出されています。

小学校などでは、地域の人々が出し合うということもあり、なかなか遠出はできませんでした。費用の問題もあり、徒歩で移動したり、お寺に泊まったりする学校は少なくありませんでした。熊本県尋常師範学校の修学旅行は、陸地は徒歩で移動ではありますが、汽船に乗ったり、沖縄でも旅館に泊まったりしています。教育に力を入れていたことの一つの現われだともいえると思います。

この修学旅行の目的は主に 3 つあると当時の校長は述べています。

① 新しい知識を得ること、②互いに助け合うこと、③沖縄の学生と信頼関係を築くということ

#### 【旅 程】

4 月 9 日：朝 3 時起床→4 時：熊本師範学校を出発→三角港まで徒歩で移動（午後 3 時到着）

汽船信濃川丸で沖縄を目指す。途中、鹿児島山川港、大島などに立ち寄る。

4 月 14 日午前 6 時 45 分：沖縄の那覇港着 →旅館寺田屋に到着。沖縄師範学校の生徒が寺田屋まで行き、その日は、熊本師範学校の生徒たちを沖縄師範学校の生徒たちが案内した。

翌 15 日も、沖縄師範学校の生徒たちとともに、沖縄南部を徒歩で移動し、小学校の視察を行う。

昼食では小学校で、歓迎され、甘い物や魚を揚げたもの、泡盛などでもてなされる。とても歓迎されていることがわかる。

その日は旅館に戻ると、県知事主催の歓迎会が開催される。

16 日現在の首里、那覇市内を散策。小学校、沖縄中学、沖縄師範学校を訪問。授業見学。沖縄師範学校生徒が首里城や識名園を案内する。

この晩、熊本師範学校生徒と同世代の沖縄師範学校生徒、沖縄中学生徒との懇親会が開かれる。

17 日も沖縄師範学校の生徒と合流し、熊本師範学校卒業生が教員として勤めている小学校と一緒に訪問している。

18 日は一日自由時間となっていた。19 日の午前 9 時に那覇港を出発する際、沖縄師範学校、沖縄中学校、沖縄で働く官吏などが見送りにきていました。

**\*ここで注目すべきことは、3点**

1点目、沖縄滞在のほとんどの日程において、沖縄師範学校の生徒とともに活動していたことです。旅行先の学校見学は、当時よく実施されていたものでした。しかしながら、この旅行のように地元の生徒と一緒に行動をとめているものは、他府県の師範学校の修学旅行でもあまり見られないことです。

2点目、1点目とも関連しますが、沖縄師範学校の生徒たちが地元を案内して回るということです。学校行事は、教員に引率されて行動するというのは、今も昔も同じなのですが、生徒たちの自主性が見られるということが注目すべきところだと思います。

3点目、沖縄で訪問した小学校など、行く先々で、盛大にもてなしを受けている点です。この点は、色々なことが考えられますが、師範学校の生徒に対して大きな期待をかけていた表れともいえると思います。

**【最後に】**

熊本師範学校の沖縄修学旅行は、沖縄の人々に熊本のイメージを示す一つのデモンストレーションであったと思います。熊本師範学校の生徒たちが、活動する姿が、当時の人々にとって、ある種の模範となり、そして熊本のイメージを沖縄の人々に定着することに寄与したと思います。また、それは反対のことも言うことができるでしょう。沖縄師範学校の生徒たちが、那覇市内や、沖縄の各地を案内することによって、リーダーシップを図ることができる沖縄師範学校、という印象を熊本の生徒たちに示すことができたと思います。これは、教員がすべてを教授するというより、あくまでも生徒たちが生徒たちを案内するというスタイルからうかがい知ることができません。若い生徒たちのこうした教育交流は、生徒自身らが互いを知るだけでなく、熊本、沖縄という二地域を理解し、認識する一つの契機となりました。そして、若者たちが切磋琢磨をし、刺激を受けあったのだと思います。